



コーホート

15年目のHop! Step! Jump!

ちやぶ台次世代コーホート通信第1号
 山口大学教育学部(ちやぶ台方式教職研修部)
 ちやぶ台次世代コーホート事務局
 山口県山口市吉田1677-1
 TEL: 083-933-5399

「Advanced course」と「Basic course」のみんなと SDGsについて学んだ! 語り合った! 本年度最初の研修会(オンラインで開催)

10月16日の午後、本年度初のコーホート研修会(Advanced course第4回研修会)をオンラインで開催しました。今回の研修会のテーマは「SDGs」。参加者は、受講生62人(現職教員34人、学生28人)、スタッフ13人、県教委1人、講師1人、計77人でした。新型コロナウイルス感染症対策で、今回は対面で行うことができないのは残念でしたが、講師の先生のご支援で、オンラインのよさを生かした研修会となりました。次回の研修会で、今度は対面でさらに熱く語り合いたいという思いを醸成する会になったのではないかと感じています。

講演 テーマ 「SDGsは教育に必要か? ~SDGs世代の中高生の価値観とアクション紹介~」
講師 新渡戸文化中学・高等学校 統括校長補佐・教育デザイナー
 (一社)Think the Earth SDGs for Schoolアドバイザー
 (株)ゲイト CSV教育アドバイザー **山藤 旅聞 さん**



受講生の感想より

山藤先生に火を付けていただきました!



今日の目的
 「なぜ?」を考え・共有する時間を楽しむ
 ~目的 or 手段~

これからの教育にSDGsはなぜ必要か? ~動き出すSDGs世代の子どもたち~

「心が動く授業」を私はこれまで意識していたが、山藤先生は心が動いた先の体が動いた活動を促進されていて感銘を覚えた。公教育において、心を動かせる場所は一教員として生み出すことはできるが、体を動かすことはまさに学校文化を変えなくてはできないと思っている。そこに尽力されておられる姿は尊敬に値するものであり、私もまだスタート地点にすら立ててはいないが追いかけていきたいと思った。

山藤先生が何度もおっしゃられていたように、SDGs自体を目標にするのではない。気づけばそこにあるものとするのが大切だと学んだ。生徒がSDGsの目標を用いて自身の活動を価値づけをしたり、足りない要素を確認したりという手段にする。その視点を今回の講演から得ることができたことは幸せなことであり、ぜひ私の生涯に活かしていきたい。(大学院M1)

私は、最近SDGsについて聞くことが増えてきて、やらなくてはいけないものとなんとなく思っていた。しかし、山藤先生は、まず「必要なか」という問いからお話されていて、SDGsを達成することが目的ではなく、教育目標を達成する手段であるという、これまでなかった視点で考えることができた。また、「何のためにやるのかが明確になっていないならやらないほうがいい」というお話もとても印象的だった。社会が重視しているからやらなくてはいけないではなく、常に頭の中に「なぜ」を持って、本質をしっかり考えること、その上で必要かどうか判断し、行動していくことが大切なのだと学ぶことができた。加えて、私はSDGsはなんだか難しそうだと感じていた。しかし、山藤先生が「気候変動などは深刻な話だけど、子どもたちとどんな未来を作るかワクワクしながらポジティブに考えていくことが大切」とおっしゃっているのを聞いて、とても感銘を受けた。難しく考えてしまっていたけれど、どう変えていくかそのために何ができるかを、子どもたちと一緒に前向きに考えていくという心を大切にしていきたい。

また、子どもたちの学びはどうあるべきかというお話も心に残った。先生の、子どもと合意形成をしてから授業を進めていかれているというお話や、主体性を促すあらゆる活動をお聞きして、学びの場の作り方はこんなにも幅広いのだと驚いた。子どもたちの豊かな可能性を引き出せるようになるためには、自分の知識がないことによってできることの幅を狭めてしまわないことがまず大事なのかなと思った。だから、将来そんな教育ができていけるようになるために、いろんな実践を見させていただいたり、教育以外の場を自ら体験したりして視野を広げておくことが今できることだと感じた。子どもたちがキラキラして学んでいる姿が見られる、心が動くことから始まる教育ができるために何ができるか考えていける教師になりたい。

今回のご講演を聞いて、まずは自分の心が動くことから、行動に移していきたい!ととてもワクワクした気持ちになった。とても貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました。(大学3年生)



SDGsについて、最初は小学校で取り扱うには時間的にも内容的にも難しいと思っていた。しかし、今回山藤先生の講演を聞いて、SDGsを心が動く手段にすれば、小学校でも比較的簡単に取り入れることができると考えた。小学校で取り組む総合的な学習の時間の活動の一部が、SDGsの中の取組に、最終的に少しでも関わることができれば、子どもたちは世界を動かすような取り組みをした満足感が得られるのではないかと考えた。現在、私は総合的な学習の時間で、健康について学習を進めている。コロナの影響で子どもたちの興味・関心はとても高いので、そこへ世界や地域での困り感や課題を結びつけることができれば、新たなアイデアや子どもたちの意欲をもっと引き出せるのではないかと感じた。早速、できることからできる範囲で取り組んでいこうと思う。

最後に山藤先生が話された、大学生が教えるのではなく子どもの思考と一緒に考えるという言葉もとても印象に残った。大学生だけでなく、今の自分にも当てはまる。私は、児童が活動しやすいようにルールをひかなくてはならないと思い準備をしてきたが、クラスの児童と同じ立場になって共に考えることも大切だと学んだ。また、そう見せるための教材研究や教育技術も必要だと感じた。
(小学校教諭)



心が動く → 体が動く
目標設定 学ぶ



SDGsの第一人者と言われる先生が目的ではなく、「あくまで手段の一つである」「不要なら取り入れなくてもよい」と言われることに大きな意味があると思う。何かにつけて「SDGs」といい、関連づけようとするのは本質から離れていくように思われる。よくあるブームとなってしまう、一過性のことになりかねない。

未来に向けての目標として示され、全世界で意識され、その基準となるこの尺度は、多くの仲間をつくり、新しい変化にむけての仕掛けを生むための共有ビジョンになり得ると思われる。

気候変動のリアルさを目の当たりにしながら、これらをポジティブに考えていくその姿勢は大変参考になった。子どもたちが「楽しい」と感じなければ学びにならない。そのためには教師自身が「楽しい」と感じて授業や学校生活をつくっていかなければならないと思う。教師がネガティブな発言をし、苦しみながら日々を過ごしていれば、子どもたちに影響を与えてしまう。教師が明るい未来を子どもとともに考えていくことが必要だと山藤先生のお話から感じた。しかしそれは教師が与えるというのではなく、子どもの力を信じ、引き出し、深めていくこと。そのためのツールとして、SDGsは大変有効なツールであると感じた。

「今日でしか生まれなかったものがある」とい、「SDGsを使う先生も、使わない先生も目指すところは同じ」という言葉は、最も大切な「共に学び、よりよい教育を目指す仲間づくり」につながると感じた。今年度の第1回のちゃぶ台次世代コーホート研修会にふさわしい、大変有意義なお話をお聞きでき、明日の活力につながった。
(中学校教諭)



「日本の教育をトランスフォームしたい」という山藤先生の志にしばれました。また「いかに学校文化にしているか」という言葉に強く共感した。「心が動く」→「体が動く」が結局主体的に動いていくカギだと思う、教員も生徒も。私は、担任をしていますが、教科担をしていますが、「生徒の心に火をつけたい」を思っていて、その火種を持っている生徒は「自走」していくと思う。そのための「本物の世界」を見せる授業や「探究の時間」、生徒も教員も「現実」を見ながら語り合う機会を大切にしてきたつもりである。山藤先生のお話の中でも、多くの資料を提示してくださり、現実の生徒の姿だけでなく、データや調査をベースに考えていच्छり、かつ未来を見通しながら実践されていच्छる様子だった。学ぶことが多かったです。
(高等学校教諭)

研修びらき・ちゃぶ台ピア・サポート（校種別：SDGsに関すること）の感想

大学生の感想

コロナ禍の中で、学校現場で子どもたちや先生たちと関わる機会が減っているから
コーホートは貴重な学びの機会ですね。

現職の教員の方、大学院の方の意見は、やはり自分にとって新しく深いものだった。最後の活動で、「体が動いてから心が動くことはないのか」という問いが出て、それに対する意見共有が面白かった。私はつい話者の意見をそうだなど聴いてしまうので、さらに深める疑問や質問を持てるようになりたいと感じた。

小学校段階では、すべてをSDGsに結びつけて扱おうとするのではなく、「心が動く」ということにまず重点を置いて授業をすることが大切なのだと感じた。そのような「心が動く」体験をした子どもたちが、中学校や高校においてSDGsとのつながりに気づける体験に出会えば、小学校時代の学びや体験が大きな価値を見いだすのではないかと思った。このように、小学校～高校など、先を見据えて段階的にSDGsを扱うことは大切なのではないかと思う。

「心を動かす」といっても、人の心をこちらが動かす事は簡単なことではないだろうと感じ、現職の先生方へのそのようなことをされているか伺いました。「地域の良さを知る」ことでまずは現状を知ろうとしているということをお話いただきました。確かに、課題意識をもつまえに「今」をすることは欠かせないだろうと感じました。住んでいる都道府県によっても、それぞれ異なる特徴をもつことも印象的でした。

例えば北九州では「SDGsの未来都市」とされており、企業も協力してくれるそうです。それを聞いて、山口県の実際はどのようなものかあまり知らないことに気付いたのでこれから知っていきたいです。

最後に「教員が軋まないようにレールを引いてしまうから、子どもが困ったりイヤだと思う機会が少ない」とおっしゃっていたことにとっても驚きました。確かに、不満や怒りは大きなエネルギーとなるのだろうと思います。どの程度の困難さなら自分たちで乗り越えることができるのか、見極める力も教員には必要なのだと考えました。

自分の意見をまとめて話したり、現職教員の方と意見交換できる数少ない交流の場でとても有難かった。教育を通じて、アイデアを出し合う機会はあまりないのでちゃぶ台ピアサポートを通じて新しい視点や意見を発見していきたい。

院生の感想

学部生とも現職教員とも深く関わる事ができるコーホートは、
院生にとって、自分の今を照らし出すことにもつながるのですね。

自分の専門外のことも柔軟に対応できる力を今後身につけなければならないと感じた。今回、特別支援教育や小学校教育の方のグループであったため話しやすかったが、中学校・高校との連携をはかったり、それらの学校種等と協働する中で、自分の目線以外にもなってみて、語れるような力や深い知識理解が必要だと感じた。

現職と同じ土俵で話せる機会はやはり楽しいし、たくさん話していたいと思いました。

講演での些細な疑問をピア・サポートで同じ班だった先生方に答えていただくことができました。私の中になかった考えに出会うことができたり、先生方の現場の経験を踏まえた体験談を話していただいたりしました。勇気を出して質問をすることでピアでサポートされていることを実感することができました。

グループの人達との話のなかで、同じ山藤先生の話聞いても感じる事、考える事が違い、それらを共有することができて、非常に有意義な時間となった。SDGsを授業にどう生かすかについては、そもそもこれまでやってきた授業にもSDGsが取り入れられていたというお話を聞いて、SDGsを意識した授業ができるようになるのではなく、結果的にSDGsの内容が得られるような授業、自然に繋がるような授業を目指して、実現できればいいのかなと感じた。そのなかでも、まずはSDGsが取り入れられているかどうかを意識しながら授業を創っていくことが先かなと感じた。

グループの人たちと様々な話、意見交換ができて非常に楽しく、学びのある時間となった。

ピアサポートを通して、やはり学びに大切なのは「対話」だと感じた。しかも、ただの対話ではなく、様々な立場にある人が班となって意見が言える(聞ける)場はとても貴重である。特に今回は学部の学生の方もおり、「小学校か中学校か悩んでいる」という思いを考えていく中で、「自分はなぜ中学校という校種を選んだのか」という「今の自分」を見直すきっかけとなった。もちろんコーホートでは、先輩から学び、また後輩に学びを伝える場であるが、後輩から学ぶこと、改めて考えるきっかけとなる事がたくさんある。今後も、様々な人との出会いを大切に、自分の今と結び付けて考えていきたい。

コーホート登録の若手教員の感想

コーホートって、

自分の強みや日々の自分の頑張りに気づく機会にもなるんですね。

教員3年目になり初任校を離れる前に、これからの自分の教員人生を考えた時に、挑戦したいこと、強みにしたいことは何かを考えるようになりました。今回、次世代コーホートに初めて参加しましたが、一つの問いに対して、様々な校種の教員や大学生、大学の先生と話し合いをすることはとても刺激になりました。様々な立場の人の意見を聞いて、自分自身の考えを見直すことができました。
(小学校教諭)

ピアサポートの終盤では、主体性を高めるにはどうしたらよいかという話題になりました。ベテランの先生方が授業での働きかけについて話されるのを聞き、「やってみたい」という思いが主体性であるならば、私は栄養教諭として、「本物との出会い」を設定することは有効かもしれないことを実践を交えて話してみました。計画したことをもとに実践をし、子どもの反応をみて、自分の働きかけの有効性などを振り返り、次回につなげることを意識しているからこそ語る事ができたと感じています。今回、自分の実践が人の役に立てるかもしれないと感じられたことがとても嬉しいです。先生方やこれから先生になる方々に栄養教諭として語ることで、栄養教諭が身近な存在であるという認識を広げられたと感じています。さらに、もっと沢山の実践や経験を積み、学んだことを還元できるような大人になりたいという夢ができました。
(栄養教諭)

コーホートAdvanced course (採用3年以上～中堅)の感想

先輩の先生も、一生懸命学ぼうとする後輩たちの姿から

得ることがたくさんあるんですね。年下からも学ぶ先輩って素敵♡

働き始めて4年目。昨年までコーホートでお世話になり、お兄さんお姉さんに学ばせていただいていた身ではあるが、少ない経験の中で現場のことを若い方々に伝えられることを喜びに思う。学生の理論と現場の様子を比較して考えることで、自分の襟を正すことができる。そして、学生の教育についての理想や大切にしている理論に触れることで、私自身さらに奮い立たされる。そのような貴重な機会だと改めて感じた。
(小学校教諭)

グループ内には大学生が2人いたが、非常に鋭い視点に驚かされた。言葉の選び方など、内容の質も非常に高かった。大学生個人の資質もあるだろうが、ちゃぶ台に来るという時点で、かなり意識が高いということが伝わってきた。参加している大学生の「姿」から「力」を取り出し、どのようにすればその力が他の大学生にも身に付くのかを一般化してみるとよいかもしい。

(小学校教諭)

現役学生さんが緊張しつつも熱心に参加されていたように思います。グループ内の教員経験値が低かった分、全員の声はどう集めるか考えながら振り返りを進めました。最後の15分は、ジャムボードにまとめながらの展開にしましたが、そのまとめ方への感謝を現職の若手の先生が連絡くださったことも勇気のいることかもしれないだけに素晴らしいと感じました。
(小学校教諭)

私たちのグループでは、講演を振り返る中で、学生が、アクティブラーニングについての疑問を投げかけてくれた。参観授業の様子から感じた疑問だという。それに対して、現職教員・栄養教諭・ストマス・・・それぞれの立場から思うことを話していった。積極的に、自分の疑問や思いを話してくれた学生のおかげで、とても充実した時間になった。教員養成段階の人材育成の重要性についても、講義等で学んでいるが、今回、一生懸命に学ぶ学生を目の前にして、より一層、一生懸命応援してあげたいという気持ちを強くした。
(小学校教諭)

チャットの言葉やブレイクアウトセッションの話し合いの中で、「大切なことだけど、でもこういう悩みがあるよね」という本音が出せるところが大事なのではないかなと思う。大変なことがある、でもそればかりじゃない。意義ある取組がある、でもなかなかうまくいかない。教師を目指す若者、一生懸命に取り組む若手教員に、そのどちらも知ってほしいと思う。そして、同じ悩みを抱える人がいる、ミドルで経験を積んだ教員もまた悩みを持っている、でも、こうやって学ぼう、頑張ろうという仲間がいる、支えてくれる、一緒に考えてくれる人たちがいるということは、きっと財産になるのではないかなと思われる。

「講演を聴くだけでは力はつかない」と言われる。刺激は受けるが、明日の学校生活に生かすには、学んだことを話し合っただけでは深めて自分のものにしたり、学んだことを実践したりするしかない。今回の研修会を受けて、その後こんな実践をしてみたという交流がどこかで図れると素晴らしいのではないかなと思われる。
(中学校教諭)

今日の一番の収穫は私自身の心が動いたことです。自身の研究が行き詰っていましたが、講演やピア・サポートの中の意見交換から、研究を進めるアイデアをいくつも発見しました。特に学部生との意見交換はとてもよい学びとなりました。忖度のない何気ない問いが、本質的な問いで、質問に答えることが私自身の考えの整理となりました。
(中学校教諭)

今年度、初めて参加させていただいた。熱い思いをもつ仲間との語りは、いつも新鮮な気持ちにさせてくれる。目の前の業務に追われているが、心の余裕をもつためにも、このように共通の話題でお互いの思いを語り合う機会は必要だと感じた。これがよい栄養剤になり、次への活力につながっている。
(中学校教諭)

学生の参加者とも話すことができ、よい熟議の場となりました。人材育成の視点で話することも稀なので、貴重な経験となりました。学生が自分から積極的に話すのは難しいと思われま。その人たちの意見をうまく吸い上げて、なおかつ自分の意見もきちんと伝えることの難しさを感じました。また、教員経験が無くても、しっかり教育について語れる姿は刺激を受けました。学校の中でもそうですが、異年齢集団で話すことはどちらにとってもよい学びになることを実感できました。ありがとうございました。
(高等学校教諭)